

平成24年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等）
1 地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。	① 校内環境美化に積極的に取り組む。	校内の環境・美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合は68%であった。	毎月のマナー環境美化週間で、美化委員を中心に校内の環境美化に取り組んでいるがまだまだ生徒の意識は向上していない。来年度はこの運動をさらにすすめるとともに新たな取り組みも考え、生徒の美化意識の向上を図りたい。
	② ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深める。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	里山里海の大切さが理解できていると答えた生徒の割合は62%であった。	里山里海の保全活動は現在3つの研究会が行っている。これらの活動について全校生徒に啓蒙活動を行い、里山里海の大切さを理解させるとともに専門家による講演会なども行った。まだまだ意識は低いので引き続き粘り強い取組を進めていきたい。
	③ 地域の環境保全のためのボランティア活動への積極的な参加を奨励する。	ボランティア活動に参加した生徒の割合は A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	C	ボランティア活動に参加した生徒の割合は32%であった。	ボランティア活動の取組はまだまだ不足している。各部・研究会、生徒会などが一体となって工夫した取組が必要である。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の環境美化に関しては、PTAも巻き込んだ活動を行うことで生徒の意識も高まるのではないかと。</li> <li>・里山、里海については、志賀高校がよい活動をしている。生徒も含めて他校との交流をすすめるべきだと思う。</li> </ul>				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と生徒が一体となった活動は非常に意義があると思う。PTA役員とも相談して実現に向け努力する。</li> <li>・他校との交流は新たな発想である。来年度係を中心に実現に向け、検討したい。</li> </ul>				

平成24年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 2

2	学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	① 10分間の朝学習（翠星タイム）を実施し、基礎学力等を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	基礎学力が身についたと答えた生徒の割合は73%であった。	毎日の朝学習の継続により生徒は着実に基礎学力を身につけていると思われる。また、マナトレの導入により生徒も基礎学力の定着を実感できるようになってきたと思われる。今後とも継続して取り組みたい。
		② 生徒の授業評価や研究授業、互いの授業参観を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	授業が分かりやすいと答えた生徒の割合は86%であった。	研究授業を行ったり、期間をもうけて互いの授業参観をすることにより、授業力は向上していると思われる。今後は、生徒がより主体的、積極的に取り組む授業を目指して取り組んでいきたい。
		③ 3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	各年次のキャリア教育が進路の参考になった生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	本校のキャリア教育に満足していると答えた生徒の割合は78%であった。	本校のキャリア教育は1年次における「キャリアガイダンス」2年次における「インターンシップ」、3年次における「長期型企業研修」を柱として行っており、成果は出ている。しかし就職試験で不採用となる割合が高く、今後の課題としたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は概ねよい評価となっている。今後も継続して取り組んでほしい。</li> <li>・キャリア教育に関しては、工場見学等をもっと増やしてはどうか。実際に見学してみると仕事の大変さや面白さが伝わるのではないかな。</li> </ul>					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着に関しては、今年度に策定した基礎学力養成計画に基づいて3カ年計画でしっかりと行う予定である。</li> <li>・工場見学については、来年度修学旅行で、東京に行き、そこでいろいろな企業の見学を行う予定である。</li> </ul>					

平成24年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定	集計結果	分析（成果と課題および後期の扱い（改善策）
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	① 登校指導や授業等を通して挨拶の習慣化に積極的に取り組む。	自発的に大きな声で挨拶ができる生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	言葉遣いや服装・挨拶などマナーが向上したと答えた生徒の割合は76%であった。	授業や登校指導等で全職員が意識して取り組んでいる成果が表れていると思われる。ただし、保護者のアンケート結果をみるとマナーが向上した生徒の割合は58%とまだ低い。今後とも粘り強く指導していきたい。
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	前年度に比べ、遅刻者の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	A	昨年度に比べ、遅刻者の減少割合は48%であった。	遅刻者の数は前年12月までで1321件、今年は689件であった。保護者アンケートでも時間を守ることができると答えた保護者の割合は88%となっている。遅刻者に対する指導が効果をあげていると思われる。今後もさらに指導を徹底していきたい。
	③ 登校指導、下校指導等を行い、交通安全指導に取り組む。	前年度に比べ、指導を受けた生徒の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	D	昨年度に比べ、指導を受けた生徒の割合は25%増加している。	11月末現在で、指導をうけた件数は前年が243件、今年は303件であった。内訳をみると二人乗りが90件ともっとも多く、以下無灯火73、その他58件となっている。来年度はぜひとも減少するよう取り組みたい。
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	① 講演会や研修会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	部や研究会活動などに積極的に参加していると答えた生徒の割合は64%であった。	各部・研究会の活動を見直すとともに、無所属の生徒に対して、働きかけを強化し、部や研究会活動の活性化を図りたい。
	② 農業クラブ活動の活性化に取り組み、全国大会への出場者増加に取り組む。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 6名以上 D 学校枠の5名のみ	C	今年度は農業鑑定競技4名、平板測量競技3名の合計7名であった。特に意見発表部門やプロジェクト発表の部門においては北信越ブロック大会では最優秀はゼロであった。	農業科を中心に、意見発表やプロジェクト部門の強化を図り、来年度は北信越ブロック大会で一つでも多く最優秀がとれるよう取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車乗車マナーについては、事故のこわさを生徒に実感させることが大切である。</li> <li>・遅刻や服装に関しては、生徒の意識も大切だが、保護者の意識を変えることも重要である。</li> <li>・研究会活動については、もっと農業を前面に押し出して生徒に活動させることが大切である。</li> </ul>				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車乗車マナーについては、生徒が事故のこわさを実感できるような講話を警察等とも相談し、実施したい。</li> <li>・遅刻は今年度激減した。来年度も粘り強く取り組みたい。</li> <li>・研究会活動に関しては、所属生徒を増やす努力と共に、担当職員ともよく話をして、活性化に努めたい。</li> </ul>				